

就労継続支援 A 型事業所における地域連携活動実施状況報告書

事業所名	就労支援A型事業所 JOY QUEST	事業所番号	2714102650
住所	大阪府大阪市北区同心1-1-26	管理者名	滝本 由佳
電話番号	06-6467-4891	年度	令和6年度

地域連携活動の概要

<p><活動内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ●活動名：きたまるしえ・場所：大阪市北区扇町2丁目1-27・日時：R6年4月16・19日 ●活動名：きたまるしえ・場所：大阪市北区扇町2丁目1-27・日時：R6年7月8日 ●活動名：きたまるしえ・場所：大阪市北区扇町2丁目1-27・日時：R6年10月 ●活動名：きたまるしえ・場所：大阪市北区扇町2丁目1-27・日時：R6年12月2日 ●人数：3～5名 ●作業内容：展示販売、受付、接客、会計業務 	<p><活動の様子></p> 
<p>1. 地域連携活動の狙い 障害のある方々の社会参加の機会を増やし、地域住民との交流を促進する。 地域における障害者支援の理解を深め、共生社会の実現に貢献する。 事業所の取り組みを知ってもらい、活動への関心や支援の輪を広げる。</p> <p>2. 地域にとってのメリット 地元で作られたハンドメイド雑貨を購入できる機会が増え、地域経済の活性化につながる。 障害のある方と地域住民が直接触れ合うことで、相互理解が深まり、共生の意識が高まる。 役所のスペースを有効活用することで、地域の賑わい創出につながる。</p> <p>3. 対象者（障害のある方々）にとってのメリット 自分の作った商品が販売されることで、仕事への自信や達成感を得られる。 販売を通じて地域の人々と直接交流することで、社会参加の実感を持てる。 収入を得ることで経済的自立の一步となり、就労意欲の向上につながる。</p> <p>1. 実施した結果 4回のマルシェを予定通り開催し、無事に販売を実施。 地域住民や役所職員との交流が生まれ、認知度向上につながった。 障害のある方々の接客経験の向上が見られた。</p> <p>2. 得られた成果 (1) 地域住民とのつながりの強化 購入者との会話を通じて、「応じています」「次回も楽しみにしている」といった声が寄せられ、障害のある方々の社会参加の意識が地域に伝わった。 一部の住民から「ワークショップも開催してほしい」などの提案もあり、今後の展開のヒントを得ることができた。</p> <p>(2) 事業所の活動の認知度向上 役所のスペースを活用したことで、普段事業所を知らない人にも活動を知ってもらう機会になった。 地域の企業や団体から「共同企画をしたい」との話が出るなど、新たな連携の可能性が生まれた。</p> <p>(3) 利用者のスキル向上とモチベーションの向上 販売経験を通じて、接客の仕方や商品の魅力を伝えるスキルが向上。 実際に商品が売れることで「次はもっと良いものを作りたい」という意欲が高まった。 自分の作ったものが評価されることで、自己肯定感の向上につながった。</p> <p>3. 課題点 (1) 販売機会の拡大 役所での販売だけでは限界があり、「もっと多くの人に知ってもらいたい」という声があった。 他の地域イベントやオンライン販売の活用を検討する必要がある。</p> <p>(2) 商品ラインナップの充実 人気の商品はすぐに売り切れてしまう一方で、売れ残る商品もあった。 来場者のニーズを分析し、より魅力的な商品ラインナップを考える必要がある。</p> <p>(3) 接客スキルのさらなる向上 事前にロールプレイングなどの練習を行い、安心して接客できる環境を作る工夫が必要。</p> <p>まとめ 今回のマルシェ販売は、地域住民との交流を深め、利用者の社会参加を促す良い機会となった。一定の売上とともに、認知度向上やスキルアップといった成果が見られた。一方で、販売機会の拡大や商品ラインナップの工夫、接客スキルの向上といった課題も明らかになったため、今後の活動に活かしていく必要がある。</p>	

連携先の企業等の意見または評価

<p><連携先の企業などの意見・評価></p> <p>北区地域での即売会や定例会議などへ参加し、他の関係機関と連携を取りながら・地域住民の方と積極的に、交流をされているように思います。</p> <p>いつも新しい商品が出ているので、色々と考えながら作成されているのが伝わってきます。</p> <p>引き続きよろしくお願いたします。</p>			
連携先企業名	NPO法人 北区精神障害者福祉を進める薔薇の会	担当者名	荒河 勇樹